

令和4年度
シラバス



第2学年
北海道天売高等学校

目 次

・目次/シラバスとは	裏表紙
・令和3年度入学生教育課程図	1
・第2学年	
1. 『現代文B』	2
2. 『世界史A』	4
3. 『数学Ⅱ』	6
4. 『数学A』	8
5. 『生物基礎』	10
6. 『体育』	12
7. 『保健』	14
8. 『書道Ⅰ』	16
9. 『コミュニケーション英語Ⅱ』	18
10. 『英語表現Ⅰ』	20
11. 『Teuri High School CAN-DO List』	22
12. 『家庭基礎』	23
13. 『情報処理』	25
14. 『水産海洋基礎』	27
15. 『天売学』	29

★シラバスとは？

「シラバス」とは、学校で行われる授業の年間学習案内です。これから1年間を通じて授業で「何を、何のために、いつ、どう学び、どのように評価されるのか」を生徒の皆さんや、保護者並びに地域の方々に説明するためのものです。

「シラバス」により、学校でどのような勉強をしているかがわかります。ご家庭での進路相談などに役立てていただければ幸いです。

★シラバスをどう活用すれば良いのでしょうか？

高校生活はわずか3年～4年です。本校生徒の皆さんは昼間働き、夜に貴重な時間を費やして学びにきています。ですから限られた時間を有効に活用することが大切です。

言うまでもなく、日常の学習活動の基本は学校の授業です。「シラバス」を確認することによって、1年間の授業の進捗や内容が事前に分かるので、先を見通した学習計画が立てられます。また、学校の学習以外にも、進学のために添削指導が必要で、そういった指導をぜひ受けたいという人もいることでしょう。効率よく学習を進めるには、学校の授業やそれ以外の学習を計画的・継続的に、上手に組み合わせることでいくことです。

「シラバス」は、生徒の皆さんが主体的に学ぶ手助けをする「学びのナビゲーター」です。「シラバス」を参考にして、それぞれの自己実現へ向けて第一歩を踏み出してください。

令和3年度入学生・3修コース

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1年	国語総合			世界史A		数学Ⅰ				科学と人間生活		体 育			
2年	現代文B			地理A		数学Ⅱ		数学A		生物基礎		体 育		保健	
3年	現代文B			現代社会		数学Ⅱ			体 育			コミュニケーション英語Ⅱ		書道Ⅰ	情報処理
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1年	保健	コミュニケーション英語Ⅰ				社会と情報		水産 海洋 基礎	天売学	総合
2年	書道Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ			家庭基礎		情報 処理	水産 海洋 基礎	天売学	総合
3年	選択A 古典 数学B ビジネス情報		選択B 日本史A 数学研究 化学基礎		選択C 生物 英語会話 課題研究			水産 海洋 基礎	天売学	総合
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25

科目名	現代文B	学年	2	単位数	2
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
教科書	新編現代文B 改訂版（大修館書店）	副教材	新訂国語総覧（京都書房） 意味から学ぶ頻出漢字（第一学習社）		

1 学習の目標

- (1) 近代以降の多様なジャンルの文章を読む中で、的確に理解したり、それをもとに適切に表現したりする能力を養う。
- (2) 登場人物や語り手などのものの見方、感じ方、考え方を捉え、批評する中で進んで読書をしたり、国語の向上を図ったりする態度を養う。

2 学習の方法

- (1) 予習について
- ア 漢字の小テストがある場合はその勉強をしておきましょう。他にある場合は、適宜指示を出します。
- (2) 授業について
- ア ノート、ワークシートへの記述をしっかりと行うとともに、授業内の活動に積極的に取り組むようにしましょう。
- (3) 復習について
- ア ノートやワークシート、教科書を見直し、学習の振り返りを行ってください。また、それをもとに日常の言語使用にも目を向けてください。

〈学習アドバイス〉

- 単元によって様々な活動（発表、作文など）を行います。その時の指示に従い、積極的に取り組むようにしてください。
- 授業内だけではなく、日常の言語使用も視野に入れて学習に取り組むことを意識しておくことさらに力が付きます。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
②話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
③書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
④読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
⑤知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料											
		定期 考査	単元 テスト	漢字 テスト	発言 発表	ノート	ワーク シート	討議	作文			
①関心・意欲・態度		○	○	◎	◎	◎	◎	○	○			
②話す・聞く能力		○	○		◎		◎	◎				
③書く能力		○	○		○		◎		◎			
④読む能力		○	○		○	◎	◎					
⑤知識・理解		○	○	◎	○	○	○					

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	自らの生活を振り返って、「迷う」ことの意義を考える。 「迷う」力のすばらしさ	教材文で述べられている「迷う」ことのできるすばらしさを自分の経験と結びつけながら読み取る。	④筆者の主張と過去の経験の関係を読み取っているか。
5	検索時代に生きる自分が読みたい本を選ぶ。 「検索」時代における読書	教材文で述べられている読書の意義を読み取り、それを自分の読書活動に結び付ける。	④「問題提起」、「例示」、「主張」という段落構成を捉え、書き手の考えを的確に読み取っているか。
	前期中間考査		
	リーディング・ワークショップに取り組む。(読書週間と連携)	前単元で選んだ本を読みながら、そこから学んだことをまとめ、伝える。	④読み取った内容を他の人にわかるように詳しく解説しているか。
6	語り手の視点から人物、情景を捉え、それを語った意図を考える。 「ナイン」	語り手の視点から人物や情景がどのように捉えられているか理解し、語り手の意図を考える。	④どうして語り手がこのように人物、情景、心情を描いているのかを捉えているか。
7	高校生活で体験したことを発表する。(生活体験発表)	生活体験発表大会に向け、大会の趣旨に沿うテーマを設定して発表原稿を書く。	②③目的や場に応じて適切な言葉を用い、筋道を立てて文章を書いたり、話したりしているか。
8	言葉に関する気になったことを調査、発表する。 「言葉は変わるもの、されど伝承すべきもの」	教材文で述べられている言葉の氾濫という部分に着目し、それに関する自分が気になることを調査、発表する。(「水産クラブ」、「天売学」を見据える。)	②③テーマに応じて収集した情報を分析、整理して資料を作成し、発表しているか。
	前期期末考査		
9	ある事例をもとに主張する文章を書く。 「ゴリラの思いやり」	教材文の構成をもとに、ある事例を根拠に位置づけた主張する文章を書く。	③収集した事例を整理し、効果的な構成を踏まえ、書いているか。
10	メディア・リテラシーの視点を育む。 「メディアって何？」 「社会生活と文章」	メディアの性質や各メディアの違いを理解し、それらを的確に読み取る方法について考える。	④教材文の構成、展開を的確に捉え、そのことについて詳述することができるか。
11	情報の伝え方を工夫して調査したことを発表する。 「情報の力関係」	教材文で述べられている情報の要素の力関係について理解し、前単元で作成した発表資料を添削する。(「天売学」を見据える。)	②③教材文から読み取った内容を踏まえ、作成した資料や発表を見直し、効果的に自分の考えを表現する方法を考えているか。
	後期中間考査		
12	自分の詩集を作る。 「小諸なる古城のほとり」、 「小景異情」、「六月」、「コスモス」	教科書に掲載された詩を読み味わい、それに関するテーマを決め、それに合うような詩を選んだり、作成したりして詩集を作る。	④詩を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読んでいるか。
1			
2	語り手の苦悩を読み取る。 「山月記」	語り手の語り手の意図を読み取り、それについて批評する。	④語り手のものの見方、感じ方、考え方を捉え、自分なりの意見を持ち、考えを深めているか。
3	後期期末考査		
	表現を工夫してユーモアのある文章を書く。 「ももこのいきもの凶鑑」	教材文に見られるユーモアのある文章にするための技法を探し、それをもとにユーモアのある文章を書く。	③教材文から表現の工夫を分析して、それをもとにユーモアのある文章を書いているか。

※【関心・意欲・態度】→①、【話す・聞く能力】→②、【書く能力】→③、【読む能力】→④、【知識・理解】→⑤として表現しています。紙幅の都合上、①、⑤の評価の観点は記述されていませんが、それらは全ての単元において関わるものであるため、授業時にその都度それらを示すようにします。

※生徒の皆さんに必要なとされる力をつけるために、ここに示された教材以外のものも適宜使用します。

科目名	世界史A	学年	2	単位数	2
科目の目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う				
教科書	世界の歴史（山川出版社）	副教材	教科書準拠世界史Aワークノート		

1 学習の目標

- (1) 中学校での授業や他教科で身につけた知識をもとに、近現代から現代までを中心とした世界の歴史について理解を深める。
- (2) 歴史上の人物や出来事に対して従来の考え方にとらわれず、様々な疑問をもって自分の考えや意見をまとめて表現する。
- (3) 授業で学んだ内容を現代と関連させて、現代の諸課題を探究する姿勢を身につける。

2 学習の方法

(1) 授業について

- ア 授業で学んだことを現代と結び付けるために、新聞やニュースを見て社会の動きに触れて下さい。分からないことがあれば遠慮なく質問しましょう。
- イ 考查は授業で扱った内容を中心に出題します。予習・復習も大切ですが、何よりも授業を重視して下さい。

(2) 単元について

- ア それぞれの単元ごとに中心となる課題を意識して授業を受けましょう。
- イ 歴史の流れがいまいちつかめなかったり、何を勉強しているのか分からなくなった時、単元を意識して学習してください。

〈学習アドバイス〉

- ・ 史実に対して「なぜ？」という疑問を常に持って授業を受けましょう。
- ・ 思ったことをどんどん発表しましょう。間違ってもかまいませんので、自分の頭の中で終わらないようにしましょう。
- ・ ペアワーク・グループワークで話し合いをするときは、他人の意見を尊重しましょう。自分の意見と違っていても否定せず、1つの考えとしてとらえた上で、自分の意見を主張しましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。
②思考・判断・表現	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。
③資料活用の技能	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
④知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料									
	定期 考查	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ワー ク ノート	討議	
①関心・意欲・態度	○				○			○	○	
②思考・判断・表現	○				○			○	○	
③資料活用の技能	○				○			○	○	
④知識・理解	◎		○		○			○		

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	第1部 世界の一体化と日本 第1章 世界の諸文明	オリエンテーション 東アジア世界 南・東南アジア世界 西アジア世界 古代地中海世界 ヨーロッパ世界	①諸文明が自然環境に適応しながら築き上げられたことや、隣接する地域世界が相互に影響し合ってきたことに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。
5	第2章 世界の一体化の始まり (前期中間考査)	明代・清代の東アジア アジアの諸帝国 大航海とアメリカ征服 新しい時代の始まりとルネサンス 宗教改革 スペインの時代からオランダの時代へ	④16～18世紀のアジア地域の諸地域の特質とその中での日本の位置付けや、ヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解し、その知識を身につけている。
6		議会王政と絶対王政 東ヨーロッパの専制・大西洋社会の展開	
7	第3章 近代の世界	フランス革命 ナポレオンとその帝国 イギリス産業革命	③産業社会と国民国家の形成に関して、その時代に作成された文字資料や絵画、風刺画、写真などの画像資料から有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
8	(前期期末考査)	ウィーン体制と自由主義改革、1848年 クリミア戦争とオーストリア・ロシア アメリカの独立・発展 アジア諸国の変貌と近代	
9			
10	第2部 地球社会と日本 第1章 現代の始まりと帝国主義	世界分割と一体化の進展 帝国主義の国際対立 日露戦争と韓国併合 辛亥革命	②帝国主義と社会の変容について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
11	第2章 二つの世界大戦(1) (後期中間考査)	第一次世界大戦 ロシア革命 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 アジア諸地域の抵抗と独立・民族運動	④20世紀初期の世界の動向と社会の特質を理解し、その知識を身につけている。
12	二つの世界大戦(2)	世界恐慌 ファシズムの台頭 第二次世界大戦前夜の世界 満州事変と日中戦争 第二次世界大戦Ⅰ 第二次世界大戦Ⅱ	②第二次世界大戦について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
1	第3章 平和と冷戦	冷戦の開始 冷戦の激化と核戦争の危機 第三世界の出現	③米ソ冷戦と第三世界に関する各種の情報や資料の収集・選択・活用などを行い、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。
2	第4章 現代世界と日本 (後期期末考査)	米・ソの動揺と多極化する世界 冷戦の終結 グローバル化とアメリカ EUの拡充とヨーロッパ、アフリカの現状 中東情勢とイスラーム アジアの経済発展 中国の台頭と多極化	①グローバル化した日本など、現代世界に対する関心を高め、地球世界の課題を、歴史的観点から探求しようとしている。
3	持続可能な社会への展望		①歴史的観点から資料を活用して探求し、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について探求しようとしている。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【資料活用の技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	数学Ⅱ	学年	2	単位数	2
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書	東京書籍「改訂 新数学Ⅱ」	副教材	東京書籍 「ニューファースト 改訂新数学Ⅱ」		

1 学習の目標

- (1) 数学Ⅰまでの知識をベースに、さらに発展的な内容の数学Ⅱに関する基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指します。
(2) 数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身につけ、それらを実生活中で活用できるようになることを目指します。

2 学習の方法

- (1) 予習について
ア 特別な指示がない限り予習の必要はありません。
(2) 授業について
ア 教科書をベースに進めていきます。必要なことは板書以外でもメモを取りましょう。
(3) 復習について
ア ノートをよく見直し、授業で扱った問題を再度解き直しましょう。
イ 課題を課しますので、類題の演習として活用して下さい。

〈学習アドバイス〉

- 「どう考えればうまくいきそうか」など数学的な見方や考え方を常に意識しながら授業を受けましょう。
○例題と練習問題など、「前の問題との違いはどこか」という視点で問題をみると、前の問題に帰着できます。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
②数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
④知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料												
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	学習 課題	休業中 課題	
①関心・意欲・態度					○			○			○	○	
②数学的な見方や考え方	◎		○		○						○	○	
③数学的な技能	◎		○								○	○	
④知識・理解	◎		○		○						○	○	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点	
4	1章 方程式・式と証明	1節 整式・分数式の計算 1. 3次の乗法公式と因数分解 2. 二項定理 3. 分数式とその計算	①3次式の乗法公式や因数分解の公式を知ろうとする。 ②パスカルの三角形や二項定理の仕組みを理解している。 ③整式の除法の計算や分数式の四則演算が正しくできる。 ④3次式の乗法公式や因数分解の公式、二項定理、整式の除法の関係式、分数式の形を正しく理解している。	
5		2節 2次方程式 1. 複素数 2. 2次方程式 3. 解と係数の関係	①新しい数である複素数について、どのような性質をもっているのかを知ろうとする。 ②複素数が考えられるようになった理由とその必要性を理解するとともに、高次方程式が因数分解を利用して解けることを理解している。 ③因数分解の公式や因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。 ④因数定理を用いた因数分解の方法について正しく理解している。	
6				
7		(前期中間査)	3節 高次方程式 1. 整式の除法 2. 因数定理 3. 高次方程式	①等式の種類および恒等式について理解しようとする。 ②不等式の基本性質を用いて、相加平均と相乗平均の関係が証明できることを理解している。 ③等式を手順に従い正しく証明することができる。 ④不等式の基本性質について理解できている。
8			4節 式と証明 1. 等式の証明 2. 不等式の証明	
9				
10				
11		2章 図形と方程式	1節 座標と直線の方程式 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	①数多くの公式を理解したり使い方に習熟することに積極的に取り組む。 ②2直線の交点の座標が、2直線を表す連立方程式を解くことで求められることを理解できる。 ③いろいろな直線の公式を理解し、場面に応じて適切な公式を利用する。 ④座標平面について、第1象限などの用語を正確に理解している。
12			2節 円の方程式 1. 円の方程式 2. 円と直線	①一般の円の方程式を平方完成の知識を用いて、標準形に直そうとする。 ②円と直線の共有点が連立方程式の解として求められることを理解できる。 ③一般の円の方程式を標準形に直すことができる。 ④いろいろな円の方程式を求めることができる。
1				
2	(後期中間査)		3節 不等式の表す領域 1. 不等式の表す領域 2. 連立不等式の表す領域	①不等式で表された領域を図示しようとする。 ②連立不等式の表す領域が、各不等式の表す領域の共通部分であることが理解できる。 ③連立不等式の表す領域が各不等式の表す領域の共通部分であることから、その領域の斜線部分の重なりとして表現できる。 ④軌跡の方程式を求めることができる。
3				
	(後期期末査)			

※【関心・意欲・態度】→①、【数学的な見方や考え方】→②、【数学的な技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	数学 A	学年	2	単位数	2
科目の目標	整数の性質、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書	東京書籍「改訂 新数学A」	副教材	東京書籍「ニューファースト 改訂 新数学A」		

1 学習の目標

- (1) 中学校までの数学をベースに、数学Aの内容の基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指します。
(2) 数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身につけ、それらを実生活中で活用できるようになることを目指します。

2 学習の方法

- (1) 予習について
ア 特別な指示がない限り予習の必要はありません。
- (2) 授業について
ア 教科書をベースに進めていきます。必要なことは板書以外でもメモを取りましょう。
- (3) 復習について
ア ノートをよく見直し、授業で扱った問題を再度解き直しましょう。
イ 課題を課しますので、類題の演習として活用して下さい。

〈学習アドバイス〉

- 「どう考えればうまくいきそうか」など数学的な見方や考え方を常に意識しながら授業を受けましょう。
○例題と練習問題など、「前の問題との違いはどこか」という視点で問題をみると、前の問題に帰着できます。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
②数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
④知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料												
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	学習 課題	休業中 課題	
①関心・意欲・態度					○			○			○	○	
②数学的な見方や考え方	◎		○		○						○	○	
③数学的な技能	◎		○								○	○	
④知識・理解	◎		○		○						○	○	

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	1章 場合の数と確率	1節 場合の数 1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 和の法則と積の法則	①集合の考え方のよさを事象の考察に活用しようとする。 ②集合の考え方をを用いて、事象を単純化したり、事象間の関係について考察できる。 ③集合の要素の個数を能率よく求めることができる。 ④集合の表し方とその意味を理解している。 ①順列や組合せの考え方が使われる場面を見出し、意欲的に活用しようとする。 ②起こり得る場合について、正確で能率よく数え上げる方法を見出す。 ③順列や組合せについて、数学的に考察して計算したり、推論することができる。 ④基本的な概念、法則・定理、用語・記号を理解し、順列の総数を求められる。 ①反復試行の確率や条件つき確率の考え方に関心をもつ。 ②事象を数学的にとらえ、論理的に考えるときともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。 ③事象を確率の考え方をを用いて考察し、処理することができる。 ④反復試行の確率や条件つき確率を求めることができる。 ①数学的活動を通して、約数と倍数などの考え方について関心をもつ。 ②身近にある事象を整数の性質に置き換えて考えることができる。 ③事象を整数の考え方をを用いて処理することができる。 ④約数と倍数について、基礎的な知識を習得して、正しく用いることができる。 ①数学的活動を通して、ユークリッドの互除法などの考え方について関心をもつ。 ②身近にある事象を整数の性質に置き換えて考えることができる。 ③事象を整数の考え方をを用いて処理することができる。 ④互除法、不定方程式について、基礎的な知識を習得して、正しく用いることができる。 ①数学的活動を通して、2進法、有限小数、循環小数などの考え方について関心をもつ。 ②10進法の表記を見直し、 n 進法の仕組みを考えることができる。 ③整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用することができる。 ④2進法について、基礎的な知識を習得して、正しく用いることができる。
5		4. 順列 5. 順列の利用 6. 重複順列	
6	(前期中間考査)	7. 円順列 8. 組合せ 9. 組合せの利用	
7		2節 確率 1. 確率の意味 2. 確率の計算 3. 独立な試行の確率 4. 反復試行の確率 5. 条件付き確率	
8			
9	3章 整数の性質 (前期期末考査)	1節 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 最大公約数と最小公倍数 3. ユークリッドの互除法	
10		2節 整数の性質の応用 1. 方程式の整数解 2. 分数と小数 3. 2進法	
11			
12	(後期中間考査)		
1	2章 図形の性質	1節 三角形の性質 1. 三角形と角 2. 三角形と比 3. 三角形の重心・外心・内心 4. 角の二等分線と線分の比	
2			
3	(後期期末考査)	2節 円の性質 1. 円周角の定理 2. 円に内接する四角形 3. 円と直線 4. 接線と弦のつくる角 5. 法べきの定理 6. 2つの円	

※【関心・意欲・態度】→①、【数学的な見方や考え方】→②、【数学的な技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	生物基礎	学年	2	単位数	2
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
教科書	新編 生物基礎（東京書籍）	副教材	フォトサイエンス生物図録（数研出版）		

1 学習の目標

- (1) 生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。
- (2) 遺伝子・健康・環境など、日常生活や社会とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。
- (3) 多様性と共通性という2つの視点から、生物や生命現象を探究する方法や姿勢を身に付ける。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 特に必要なし。
- (2) 授業について
 - ア 板書等を用いて必要事項を説明するので、ノート等にまとめながら理解しましょう。
- (3) 復習について
 - ア 学習範囲の図や写真を見て、ストーリー性のある説明ができるように、理解を深めましょう。
 - イ 教科書の「まとめ」を進めましょう。

〈学習アドバイス〉

- 生物基礎では小さなもの（DNA）から大きなもの（生態系）へ向かって視点を移しながら学習を進めていきます。前回の授業で学習した知識とどのような点が関連しているのかを意識しながら学習を進めましょう。
- 板書を写すだけでなく、担当教員の説明の中で重要だと思う点をメモしながら授業に参加しましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
②思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
③観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・事象を科学的に探究する技能を身につけている。
④知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料											
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	休業中 課題	
①関心・意欲・態度				○	◎			◎	○	○	○	
②思考・判断・表現	◎				○		◎	○		◎		
③観察・実験の技能	○			◎			○					
④知識・理解	◎		○						○		○	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	第1編 生物の特徴	1章 生物の共通性と多様性 多様性と共通性とは 細胞にみられる多様性と共通性	①③生物は多様でありながら共通性を持っていることを細胞構造の観察から理解している。
5	(中間考査)	2章 生命活動とエネルギー 生命活動を支える代謝 代謝を進める酵素 生体内のエネルギー変換 葉緑体とミトコンドリア	④生命活動に必要なエネルギーは代謝により ATP に含まれる化学エネルギーに変換され利用されることを理解している。
6		第2編 遺伝子とそのはたらき	②遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について説明できる。
7	(期末考査)	1章 生物と遺伝子 DNA の構造 DNA とゲノム	②DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを量的に理解している。
8		2章 遺伝情報の分配 細胞分裂における DNA の複製と配分 DNA の倍加 DNA の精確な複製	④DNA の塩基配列に基づいてタンパク質が合成されることを理解している。
9		3章 遺伝情報とタンパク質の合成 DNA とタンパク質合成 遺伝子の発現と生命現象	④恒常性（ホメオスタシス）とその仕組みついて理解している。
10		第3編 生物の体内環境の維持	③心拍数の測定実験から恒常性を理解している。
11	(中間考査)	1章 体内環境の維持 体内環境と体液の循環 恒常性と血液 体内環境を調節する器官	④自律神経とホルモンのはたらきについて理解している。
12	第4編 生物の多様性と生態系	2章 体内環境を保つしくみ 自律神経系による調節 ホルモンによる調節 自律神経系と内分泌系による協同作業	②免疫とそれにかかわる細胞の働きについて説明できる。
1		3章 体内環境を守るしくみ 免疫のシステム 免疫とヒト	④陸上には多様な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解している。
2		1章 植生の多様性と遷移 生態系 植生と生態系 植生の遷移	②気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを地理的に説明できる。
3		2章 バイオームとその分布 地球上の植生分布 さまざまなバイオーム	④生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解できる。
3		(期末考査)	3章 生態系とその保存 生態系でのエネルギーの流れ 生態系での物質の流れ 生態系のバランス 生物多様性の保全

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【観察・実験の技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	体育	学年	2	単位数	3
科目の目標	生涯にわたって健康的で豊かな生活を営むために、健康の保持増進の観点からスポーツをする意義や楽しさを理解させ、生涯スポーツを実践していく態度と精神を養う。				
教科書	なし	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深め、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- (2) 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。
- (3) 公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高める。
- (4) 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 学習の方法

(1) 予習について

ア 必要ありません。

(2) 授業について

ア 準備等については、全員で協力して行います。

イ 体操については、生徒が輪番制で行います。

(3) 復習について

ア 必要ありません。

〈学習アドバイス〉

- 目標を持ち、意欲的に取り組もう。
- 先生の指示に従い、怪我の無いように取り組もう。
- 全員で楽しみながら、技術を向上させよう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けることができる。
②思考力・判断力・表現力	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料										
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	
①知識・技能				◎	◎					◎	
②思考力・判断力・表現力				◎	◎					◎	
③主体的に学習に取り組む態度				◎	◎					◎	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	○体育理論	○オリエンテーション ○スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方	①体育理論の各学習内容について理解し、知識を身に付けようとしている。
	○体づくり運動	○体ほぐしの運動 ○体力を高める運動	②自分の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫している。 ③体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動を行おうとしている。
	○新体力テスト	○握力・上体起こし・長座体前屈 反復横とび・持久走 20mシャトルラン・50m走 立ち幅とび・ハンドボール投げ	③記録の向上を図るなど、意欲的に取り組んでいる。互いに協力して練習や測定を行おうとしている。
5	○器械運動	○マット運動・跳び箱	①自己の能力に応じた技を選択し、その技の習得や向上を図る。 ③自己の課題に応じ、練習を工夫し、技が円滑にできるようになる。
6	○球技	○短距離走、長距離走、島民大運動会種目 ○バドミントン	①公正な態度や安全に留意して練習やゲームをしようとしている。 ①チームの課題や自分の能力に応じて、各種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができています。 ②チームの課題や自分の能力に応じた課題を設定し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。 ③各種目の特性に関心を持ち、楽しさを味わえるよう、チームにおける自分の役割を理解して取り組もうとしている。
7	○ダンス	○よさこいソーラン	①リズムの特徴をつかみ、楽しく踊る。 ②作品を作り上げた充実感を味わう。 ③互いに協力し合いながら、楽しく取り組んでいる。
8			
9	○球技	○ソフトボール（体協ソフトボール大会） ○バレーボール	①チームの課題や自分の能力に応じた課題を設定し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。
10		○フットサル	②各種目の特性に関心を持ち、楽しさを味わえるよう、
11		○バドミントン（体協バドミントン大会）	チームにおける自分の役割を理解して取り組もうとしている。
12		○卓球（体協卓球大会）	③チームの課題や自分の能力に応じて、各種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができています。
1		○ミニバレーボール（体協ミニバレー大会）	公正な態度や安全に留意して練習やゲームをしよう
2		○バスケットボール	としている。
3			

※【知識・技能】→①、【思考力・判断力・表現力】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③として表現しています。

科目名	保健	学年	2	単位数	1
科目の目標	生涯にわたって健康的で豊かな生活を営むために、各ライフステージにおいてどのようなことに気をつけ実践していかなければならないかを学び、環境問題などに対しても個人や地域社会の役割、さらには国や国家間での役割などを正しく理解し、実践していく態度と精神を養う。				
教科書	最新高等保健体育	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

2 学習の方法

- (1) 予習について
ア 必要ありません。
- (2) 授業について
ア 授業開始前に、授業準備をしましょう。
- (3) 復習について
ア 考査は、前期末考査と後期考査の2回あります。
教科書の内容を確認し理解することが大切です。

〈学習アドバイス〉

- 知識の積み上げのみを目的とした教科ではありません。身につけた知識を生活に活かし、豊かな生活をおくることができるよう理想的な生活習慣に目を向けていきましょう。
- わが国の平均寿命は世界の最高水準にあり、急激に高齢社会をむかえています。高齢者になっても健康的で生きがいのある生活をおくれるよう、若い時期からの健康づくりに目を向けていきましょう。（「健康寿命」が延びる社会環境を築いていきましょう。）
- 健康・安全に関しては先代の人々のいろいろな苦勞や経験をもとに、知恵と努力によって改善・対策が成されてきています。それらを知識として自分の生活に活かし、新しい発想や発見につなげていきましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	保健についての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身に付いている。
②思考・判断	保健について思考を深め、その活用方法を適切に判断し、効果的な利用を工夫できる。
③知識・理解	保健に関する基礎的な知識を身に付け、その役割について理解できる。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点 \ 評価材料	定期考査	単元テスト	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ノート	ワークシート	討議
①関心・意欲・態度	◎		○		◎			○	○	◎
②思考・判断	◎		○		◎			○	○	◎
③知識・理解	◎		○		◎			○	○	◎

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	2単元 生涯を通じる健康	オリエンテーション	①思春期、結婚生活における健康問題や適切な意思決定と行動選択、加齢による心身の変化など、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理の必要性について理解している。 ②自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 ③具体例を挙げることができる。
5		1 思春期と健康	
6		2 性への関心・欲求と性行動	
7		3 妊娠・出産と健康	
8		4 避妊法と人工妊娠中絶	
9		5 結婚生活と健康	
10		6 中高年期と健康	
11		7 医薬品とその活用	
12		8 医療サービスとその活用	
1		9 保健サービスとその活用	
2	3単元 社会生活と健康	10 さまざまな保健活動や対策	①我が国の保健・医療制度や機関と地域の保健所、保健センター、医療機関の活用について理解している、また、我が国や世界では様々な保健活動や対策を行っていることを理解している。 ②自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 ③具体例を挙げることができる。
3		1 大気汚染と健康	
4		2 水質汚濁、土壌汚染と健康	
5		3 環境汚染を防ぐ取り組み	
6		4 ごみの処理と上下水道の整備	
7	5 食品の安全を守る活動	①学校や地域の環境を健康に適したものにするため基準が設定され、環境衛生活動が行われていること、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることについて、 ②自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 ③具体例を挙げることができる。	
8	6 働くことと健康		
9	7 働く人の健康づくり		
10			①職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることについて理解している。 ②自分の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。 ③具体例を挙げることができる。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断】→②、【知識・理解】→③として表現しています。

科目名	書道Ⅰ	学年	2	単位数	1
科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				
教科書	書道Ⅰ（教育出版）	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 臨書（手本を見て書くこと）と創作の両方の活動を通じて、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。
- (2) 書の歴史を学ぶことと自分の書活動を通じて、技術の向上のみならず、芸術文化についての理解を深める。

2 学習の方法

(1) 予習について

ア 必要に応じて日常生活の中から指定された書体のものを探したり、あらかじめレポートを書いたりしてもらいます。

(2) 授業について

ア 毎回作品制作の時間があるので、熱心に取り組んでください。毎回の授業への取り組みを振り返ったり、作品の出来を自己評価したりするための「振り返りシート」を記入してもらいます。また、返却された作品はファイルに保管し、1年間の成長を確認します。大切に扱ってください。

(3) 復習について

ア 学年末に、自分の作品を振り返ってレポートを書いてもらいます。

〈学習アドバイス〉

- 自分で作品を制作してみることで、日常生活の中で「美」や「芸術」を感じる機会を増えることを目標にしています。
- 作品は全て、自分のものも他人のものも「良いところ」「好きなところ」を探すよう心がけましょう。
- 道具を丁寧に扱い、自分も周りも汚さないようにしましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や観賞の創造的活動に取り組もうとする。
②書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
③創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。
④鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料												
		定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ワー ク シート	討議			
①書への関心・意欲・態度					◎	◎	◎	○	○	○			
②書表現の構想と工夫					◎		◎		○				
③創造的な書表現の技能					◎		◎		○				
④鑑賞の能力					◎	○	◎		◎	○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4 5	篆刻	白文の雅印を制作する。	①一つ一つの工程を丁寧に行い、毛筆にはない表現を追求しているか。
6 7	漢字の書の学習（楷書の学習）	初唐の三大家の楷書の学習をする。 （鑑賞と臨書）	②基本的な運筆法ができているか。 ③法帖ごとの特徴を表現できたか。
8 9	漢字の書の学習（行書の学習）	蘭亭序の鑑賞 蘭亭序の臨書	②潤濁を生かし、筆意のつながった表現に慣れたか。
10		温泉銘の鑑賞 温泉銘の臨書	②潤濁を生かし、筆意のつながった表現に慣れたか。
11 12	仮名の書の学習	ひらがなと変体仮名の鑑賞・練習	②渴筆を恐れず、気脈の通った文字を書けるか。
1 2 3	漢字仮名交じりの書の学習	作品鑑賞を作品づくりに生かす。 さまざまな用具による表現の違いを踏まえて、自分の表現を探す。	③臨書の学習で身につけたことを生かしているか。

※【書への関心・意欲・態度】→①、【書表現の構想と工夫】→②、【創造的な書表現の技能】→③、【鑑賞の能力】→④として表現しています。

※教材の順番については、変更することがあります。また、学校祭など、作品を発表する機会に合わせた取り組みをすることがあります。

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	2	単位数	2
科目の目標	1. 外国語でコミュニケーションを図るために必要な基礎的な力を身につけ、活用することができる。 2. 読み聞きした情報や考えを的確に理解し、意見や考えを相手に伝わるようにまとめ・発表することができる。 3. 異なる文化・考えを理解し主体的・自律的にコミュニケーションを図ることができる。				
教科書	All Aboard! Communication English II	副教材	All Aboard! English Communication II WORKBOOK		

1 学習の目標

- (1) 本文を読んだり聞いたりして、必要な情報を的確に理解しまとめることができる。
 (2) 与えられたテーマについて、自分の考えや意見を書いたり、話したりすることができる。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 ア 基本的には不要です。必要な時は指示をします。
- (2) 授業について
 ア 授業は基本的に英語で行います。
 イ 授業は教科書とプリント（ワークシート）主に使って行います。英和辞書も使います。
 ウ ヘア・グループでの発表や、自分の意見をまとめて発表する機会があります。積極的に取り組みましょう。
 エ 単語の学習を定期的に行います。
- (3) 復習について
 ア 教科書の英文を覚えてしまうくらいに何度も声に出して読むことが一番復習になります。
 イ 授業で扱ったプリントの見直しや、ワークブックに自主的に取り組むのもおすすめします。

〈学習アドバイス〉

- 普段、自習する際は復習に力を入れましょう。教科書の音読がおすすめです。
 ○ 授業外では自分の実力や進路希望に合わせて、+αの勉強に取り組んでみましょう。実力を試すために検定試験を積極的に受けてみましょう。
 ○ 「自分の意見を伝えること」「相手の意見に耳を傾けること」を大切にしてください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
②外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
③外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
④言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料					
	定期考査	小テスト	授業中の活動	パフォーマンステスト	提出課題	ノート・ワークシート
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度			○	○	○	○
②外国語表現の能力	○		○	◎	○	○
③外国語理解の能力	◎	○	○		○	◎
④言語や文化についての知識・理解	◎	○	○		○	○

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	L.1 Fantastic Festivals	世界にある祭りについて書かれた英語のスピーチを聞き、身近な行事について英語で述べる。	③世界にはどのような祭りがあるのかを知る。
5	(中間考査) L.2 Dancing with Freedom	自分がどういう人物なのかを英語で伝えることができる。	②自分がどういう人物なのか英語で伝えることができる。
6	Communication 1	病院で診察を受ける場面において必要な基本的表現を使って対話する。	①相手の質問に対して、積極的に答えようとしている。 ②症状や気分を正確に説明することができる。
7	L.3 The Spirit of the Forest	ヤマネの生態と絶滅の危機にある現状を知り、野生動物の保護について考える。	②環境問題について、自分の意見を理由とともに書くことができる。 ③ヤマネに関する説明を読み、概要や要点を捉えることができる。
8	文法のまとめ 1 (期末考査)	比較表現、関係代名詞(what)、間接疑問文について理解する。	④比較表現、関係代名詞(what)、間接疑問文の用法を理解し、これらを使って簡単な英語表現をすることができる。
9	L.4 Living with Robots	私たちとロボットの関わりについて現状について読み取り、ロボットと私たちの生活について、英語で意見を述べる。	①間違いを恐れずにテーマについて自分の考えを話したり書いたりしている。 ③私たちの生活に身近になったロボットの新しい役割、将来のロボットについて読み取ることができる。
10	Extra Target 1	現在完了進行形を用いて、過去から現在まで継続している様子を表現する。	①間違いを恐れずに現在完了進行形を用いて、過去から現在まで継続している様子を表現する。 ②現在完了進行形を用いて的確に過去から現在まで継続している様子を表現することができる。
11	L.5 Special Makeup in Kabuki	歌舞伎の演者に施される隈取について読み取り、日本の伝統文化について英語で述べる。	③歌舞伎に関する説明を読み、概要や要点を捉えることができる。
12	文法のまとめ 2 (中間考査)	分詞、不定詞、時制について理解する。	④分詞、不定詞、時制の用法を理解し、これらを使って簡単な英語表現をすることができる。
1~2	L.6 Microcosm in the Sea (期末考査)	グレートバリアリーフが直面する問題についてのプレゼンテーションを通して環境保護について自分の考えを述べる。	③グレートバリアリーフに関するプレゼンテーションについて、概要や要点を捉えることができる。 ④動詞の目的語となる if 節についての基本的な知識を身に付けている。
3	プレゼンテーションにチャレンジ	英語でプレゼンテーションを行う。	①間違いを恐れずに積極的に発表に取り組んでいる。 ②聞き手にわかりやすい説明や表現を用いて発表している。
	Getting the Necessary Information 1	オーストラリアの旅程を見て、旅行の予定を読み取る。	③旅行パンフレットから必要な情報を読み取り整理することができる。

※【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】→①、【外国語表現の能力】→②、【外国語理解の能力】→③、【言語や文化についての理解】→④として表現しています。

※文法のまとめ①～②の内容は Lesson1～6 の中で扱う場合があります。

科目名	英語表現 I	学年	2	単位数	2
科目の目標	1. 積極的にコミュニケーションを図ることができる。 2. 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができる。				
教科書	NEW FAVORITE English Expression I (東京書籍)	副教材	NEW FAVORITE English Expression I WORKBOOK Task Based (表現活動用ワークブック) (東京書籍)		

1 学習の目標

- (1) 本文を読んだり聞いたりして、必要な情報を的確に理解しまとめることができる。
 (2) 与えられたテーマについて、自分の考えや意見を書いたり、話したりすることができる。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 ア 基本的には不要です。必要な時は指示をします。
- (2) 授業について
 ア 授業は基本的に英語で行います。
 イ 授業は教科書とノートと副教材(WORKBOOK)を主に使って行います。英和辞書も使います。
 ウ ペア・グループでの発表や、自分の意見をまとめて発表する機会があります。積極的に取り組みましょう。
 エ 期考査は実施しません。普段の取り組みが評価に大きく関わります。
- (3) 復習について
 ア 教科書やノートの見直しや、ワークブックに自主的に取り組むのもおすすめします。
 イ 辞書などで、自分が使いたい表現を調べておくも普段の授業で役に立ちます。

〈学習アドバイス〉

- 授業中で英語を使って受け答えをすることが多いですが、間違いを恐れずに英語で話してみてください。
 ○英語で話す・書く機会が多くあります。ノートを活用して、取り組んだ内容をまとめておくようにしてください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
②外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
③外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
④言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

(2) 評価の方法 (以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料					
	定期考査	小テスト	授業中の活動	パフォーマンステスト	提出課題	ノートワークブック
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度			◎	◎	○	○
②外国語表現の能力			○	◎	○	◎
③外国語理解の能力			○		○	○
④言語や文化についての知識・理解		◎			○	○

4 授業計画

【各単元共通】

- ①各単元の表現活動を積極的に行うことができる。
 ③各単元の言語材料が使われている英語を、その言語材料が使われている意図や背景を踏まえて読み聞きすることができる。
 ④各単元の言語材料を、場面に応じて表現活動に活用することができる。

月	単元	学習内容	評価の観点
4	L.1 Hello, Japan!	[目標]自己紹介 [言語材料] 文構造① S+V / S+V+C / S+V+O	②名前, 年齢, 学年, 好きなことなどが表現できる。
	L.2 A Present for Sophie	[目標]相談をする [言語材料] 文構造② S+V+O ₁ +O ₂ / S+V+O+C	②歓迎会における特有の言い回しなどが表現できる。
	L.3 What Did You Do?	[目標]手紙を書く [言語材料] 時制① 現在形, 過去形, 現在進行形, 過去進行形	②手紙における特有の言い回しなどが表現できる。
	L.4 Let's Go on a Trip	[目標]予定を説明する [言語材料] 時制② 未来を表す表現	②Eメールにおける定型の言い回しを表現できる。
5	L.5 Music Lovers	[目標]好きなことを話す [言語材料] 完了形① 現在完了形 / 現在完了進行形	②趣味の紹介に特有のフレーズや言い回しを表現できる。
	L.6 What a Day!	[目標]出来事を報告する [言語材料] 完了形② 過去完了形, 過去完了進行形	②メッセージアプリでの書き方や文章構成の工夫を表現できる。
6	L.7 Different Schools, Different Rules	[目標]規則を説明する [言語材料]助動詞① 能力・可能, 許可・禁止・義務, 推量, 丁寧な依頼	②規則を説明する際の表現方法や文章構成の工夫を表現できる。
	L.8 Snail Mail	[目標]今と昔を言い分ける [言語材料]助動詞② 助動詞+have+過去分詞, would / used to do	②今と昔を比較して述べる場合に特有の言い回しを表現できる。
7	L.9 Plastic Food Samples	[目標]日本文化の紹介 [言語材料]受け身 受け身, 受け身を使った慣用表現	②日本の伝統文化や行事を紹介する際の固有の用語や用法を表現できる。
8	L.10 What Is That Gesture?	[目標]ジェスチャーを説明 [言語材料] to 不定詞 名詞用法, 形容詞用法, 副詞用法	②to 不定詞を正確に使って文を作ることができる。ジェスチャーについてわかりやすく説明することができる。
	L.11 Laughter Brings Happiness	[目標]決意を発表する [言語材料] 動名詞 動名詞, 動名詞を使った慣用表現	②聞き手にわかりやすいように好きな4コマ漫画を紹介することができる。動名詞を使った慣用表現を使うことができる。
9	L.12 A Movie Review	[目標]映画を紹介する [言語材料]分詞① 現在分詞, 過去分詞, 分詞の後置修飾	②好きな映画や小説を紹介することができる。
	L.13 My Brother Eats ...Homework.	[目標]学校新聞の記事を書く [言語材料]分詞②, 動詞の原形 知覚/使役動詞+現在分詞/過去分詞/動詞の原形, 分詞構文	②学校新聞の記事というジャンルの文章の特徴を考えることができる。
10	L.14 The Future of Robots	[目標]ロボットの説明 [言語材料]関係代名詞 who [that] / who(m) [that], which [that], whose	②夢のロボットについて想像力を働かせて考えることができる。
11	L.15 Visit Kuala Lumpur!	[目標]ガイド文を書く [言語材料]関係副詞 where / when, why / how	②工夫しながらガイド文を書くことができる。
12	L.16 Our School's Global Footprint	[目標]環境配慮へのスピーチをする [言語材料] 関係代名詞・関係副詞 what, 関係代名詞・関係副詞の非制限用法, 前置詞+関係代名詞	②環境問題と, それに関する対応や配慮について調べることができる。
1	L.17 Tokyo Skytree	[目標]名所の比較 [言語材料]比較① 同等比較, 比較級, 最上級	②各地の名所について紹介する文を工夫して作ることができる。
2	L.18 New Zealand	[目標]住んでいる場所の紹介 [言語材料]比較② 倍数表現, 比較表現の言い換え	②グループで協力しながら自分たちの都道府県を紹介することができる。
3	L.19 If I Were Principal ...	[目標]理想の学校についてのスピーチをする [言語材料]仮定法① 仮定法過去, 仮定法過去完了など	②自分が理想とする学校についてスピーチをすることができる。
	L.20 Thank You, Everyone!	[目標]感謝を伝える [言語材料]仮定法② as if ..., I wish ...	②感謝の気持ちを伝えるスピーチをすることができる。

※【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】→①、【外国語表現の能力】→②、【外国語理解の能力】→③、【言語や文化についての理解】→④として表現しています。

年次目標

できること	ALT と日常会話	天売島で観光案内 / 海外でホームステイ		海外高校参加 / 大学進学
科目(学年)			英語会話(3年生・選択)	
	コミュニケーション英語Ⅱ(2年生)		コミュニケーション英語Ⅱ(3年生)	
	英語表現Ⅰ(2年生)			
	コミュニケーション英語Ⅰ(1年生)			
英検目安	3級～準2級	準2級	準2級(～2級)	2級～
CEFR 目安	A1	A2.1	A2.2	B1
Reading 読むこと	身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)に関する文章を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化紹介などの、説明文を理解することができる。	まとまりのある説明文の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事などの要点を理解することができる。 平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。
Listening 聞くこと	教科書の内容を意味がとれるように間をおきながら、ゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。	日常生活での話題や簡単な説明・支持を理解することができる。	日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる。
Writing 書くこと	簡単な語や基礎的な表現を用いて、自分に関する身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 and、but、becauseなどの簡単な接続詞を用いて、まとまりのある文章で自分の意見を書くことができる。	読み聞きした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	日常生活に関わりのある社会問題などについて、自分の意見を含めて、現状をまとめたり、基本的な内容を伝えることができる。
Speaking (Presentation) 話すこと (発表)	前もって発話することを用意した上で、身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な表現を用いて、意見を言うことができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピック(学校や地域など)について短い話をすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の考えややってみたいことを、理由を挙げて短く述べることができる。	自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語るすることができる。
Speaking (Interaction) 話すこと (やりとり)	自分に関する身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)に関して、はっきり話されれば、学んだ語や基礎的な表現を用いて、簡単な意見交換をすることができる。	補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。 単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、①意見や気持ちのやりとりや、②自分の意見を伝えること、③物や人を比較することができる。 駅・店・郵便局などで、学んだ語や表現を用いてやり取りがすることができる。	母語話者同士の議論に加われないこともあるが、自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる。

科目名	家庭基礎	学年	2	単位数	2
科目の目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
教科書	新家庭基礎 主体的に人生をつくる (大修館書店)	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技能を習得する。
(2) 習得した知識や技能を、自己の生活の中に積極的に取り入れる。

2 学習の方法

- (1) 予習について
○必要ありません。
(2) 授業について
○授業開始前に、授業準備をしましょう。
(3) 復習について
○習得した知識や技能を積極的に実生活に取り入れましょう。

〈学習アドバイス〉

- 知識の積み上げのみを目的とした教科ではありません。身につけた知識を積極的に自己の生活の中に取り入れていきましょう。
- 自己の将来を考え、それぞれの技能がどのような場面で必要になるかを考えながら様々な実習を通して技能を習得しましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	生活産業を取り巻く諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②思考・判断・表現	生活産業を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、生活産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③技能	生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④知識・理解	生活産業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料										
	定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	
①関心・意欲・態度				◎	○	○		○	○	○	
②思考・判断・表現				○	○			○	○	○	
③技能				◎	○	◎					
④知識・理解				◎	○	○		○	○	○	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	第1章 人の一生と青年期の課題をみつめよう	1 人の一生と生涯発達 2 青年期の課題と自立 3 主体的に生きるための意思決定	①②人の一生について考え、ライフステージごとの特徴・課題を理解する。時代とともに変化する家族・家庭の多様化を知る。主体的に人生設計を立てられるようになる。
5	第2章 家族・家庭と社会について考えよう	1 現代の家族・家庭 2 家族・家庭・に関する法律 3 家族・家庭と社会	①②④家族・家庭とは何なのかについて考え、家族・家庭にかかわる法律について理解する。また、家庭と社会のかかわりについて理解する。
6	第3章 子どもと子育てについて知ろう	1 子どもの誕生 2 子どもの成長・発達 3 子どもの生活と保育 4 子育てと子どもが育つ環境	①②④子どもの発育・発達について理解を深める。親と社会の役割を知り、社会的な問題点の解決策を探ってみる。
7	第4章 高齢者の生活と福祉について考えよう	1 高齢期という時期 2 高齢期の生活を支える高齢者福祉 3 高齢社会の現状と課題	①②④高齢者の心身の特徴をつかむ。高齢社会が抱える問題や課題に対する考察が深まる。
8	第5章 共生生活をつくろう	1 とともに生き、ともに自立する 2 生活と社会のセーフティーネットワーク	①②④人の生涯にかかわる社会保障制度や社会福祉について理解する。ボランティア活動など、共生社会の一員としての自覚が芽生える。
9	第6章 経済生活を設計仕様	1 現代の消費生活 2 消費者問題の現状と課題 3 消費者の権利と責任 4 家庭の経済生活	①②④家庭の収入・支出、消費者の権利の必要性について理解する。自分にふさわしい経済計画を主体的にうち立てることができる。
10	第7章 生涯の健康を見通した食生活をつくろう	1 食生活の成り立ち 2 栄養と食品 3 安全で環境に配慮した食生活 4 健康につながる食事計画 5 調理の基本を学ぼう	①②④日頃の食事を通して、食生活の問題点への気づき。栄養素に関する基礎的な知識を身に付け、テーマにあった献立作成・調理ができる。 食の安全や食料自給率についての考察を深める。
11	第8章 健康で快適な衣生活をつくろう	1 衣生活をみつめよう 2 着ごこちのよい被服 3 衣生活の計画と管理	①③④衣服の購入、洗濯、保管、処分までの流れを理解する。被服の様々な機能について理解する。 基本的な技能を活かし、テーマにあった制作ができる。
12	第9章 安全で快適な住生活を送ろう	1 住生活の成り立ちと住空間の計画 2 健康で安全な住生活 3 よりよい住環境の実現をめざして	①②④住環境の役割を知り、共生可能・持続可能な住まい・住環境を考える。バリアフリーの住宅について関心を持ち、考えることができる。
1	第10章 持続可能な社会をめざして行動しよう	1 環境と調和のとれた生活 2 持続可能な社会の実現をめざして	①②④循環型社会の実現に向けての基本理念を知る。身近な環境保全活動の中で主体的にできることを考える。
2	第11章 生活をデザインしよう	1 ライフプランを考えよう 2 問題を解決してよりよい生活をつくろう	①②夢や希望を実現させるための方向を確立させ、ライフプランの作成ができる。
3			

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	情報処理	学年	2	単位数	1
科目の目標	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。				
教科書	最新情報処理 新訂版（実教出版）	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) コンピュータやネットワークを活用して、情報を収集・処理・分析する能力を身に付ける。
- (2) 表、グラフ、画像などを用いて情報を適切に表現する知識と技術を習得する。
- (3) 情報の意義や役割を理解し、情報を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 日常的にPCを使う機会を増やし、情報処理への関心を高めましょう。
- (2) 授業について
 - ア 単元によって座学と実技のどちらも行います。ワークシートを使用して学習します。
- (3) 復習について
 - ア 授業で学習した知識・技術を確実なものとするため、復習・反復練習を行いましょう。

〈学習アドバイス〉

- 情報社会の中で役立つ実践的な授業を行います。学習した内容が何の役に立つか、どんな仕事に活用できるかを考えてみましょう。
- 情報処理を学習するときは、身近な道具やニュースと絡めて考えてみましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	情報の収集・処理・分析・表現について関心をもち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けている。
②思考・判断・表現	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③技能	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④知識・理解	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料													
		定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議			
①関心・意欲・態度				○	○	○					○			
②思考・判断・表現				○	○	○					○			
③技能				○	○	○					○			
④知識・理解				○	○	○					○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	第1章 情報の活用と情報モラル	第1節 ビジネスと情報	①ビジネスにおける情報の役割に関心を持ち、積極的に情報を活用するための知識・技術を習得しようとしている。
5		第2節 情報モラル	②情報化社会の一員として、モラルやマナーに関する正しい知識と判断に基づいた行動ができる。
6		第3節 ハードウェアとソフトウェア	③ソフトウェアの基本操作や、フォルダ・ファイルの作成、適切な管理ができる。
7	第2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理	第1節 情報通信ネットワークの概要	④情報通信ネットワークに関する基本的な用語・機能・活用例を理解し、ネットワークを構成する装置、電子メールなどの仕組みを説明できる。
8		第2節 ビジネス情報の検索と収集	①ビジネス情報の検索・収集にインターネットを利用することに興味を持ち、積極的に活用しようとしている。
9		第3節 ビジネス情報の受信と発信	②情報モラルやマナーに従った正しい判断に基づく情報の検索や活用及び電子メールの利用ができる。
10		第4節 セキュリティ管理の基礎	③IDやパスワードの管理、ウィルスチェック、データのバックアップなど個人のレベルでのセキュリティ管理ができる。
11	第3章 ビジネス情報の処理と分析	第1節 基本的の表の作成	④表計算ソフトウェアの特徴ならびに、ワークシートの構成や機能を理解している。
12		第2節 関数を利用した表の作成	①表計算ソフトウェアを利用して、数値計算を簡単に行い、目的に応じた適切な表を積極的に作成しようとする。
1		第3節 グラフの作成	②グラフを見て、その意味を理解できるとともに、目的に応じて適切なグラフを選択して利用することができる。
2		第4節 情報の整列・検索・抽出	③データの整列、検索、抽出、集計ができる。
3		第5節 ビジネスと統計	④統計の目的や活用方法を理解している。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	水産海洋基礎	学 年	2	単位数	1
科目の目標	水産や海洋に関するきそてきな知識と技術を習得させるとともに、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解する。				
教科書	水産海洋基礎（海文堂）	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を育成する。
- (2) 地域の産業を体験し、水産資源の有効活用と加工技術の習得により身の回りの環境について考える。
- (3) 課題を設定し、問題解決能力を科学的視点から取り組み地域産業の水産の理解を深める。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 基本的には必要ありません。
- (2) 授業について
 - ア 水産実習は原材料の下処理から袋詰めまでを行います。
 - イ 課題研究では研究活動として調査・実験や、発表の準備・練習を行います。
- (3) 復習について
 - ア 水産実習で身に付けた魚の下処理方法などを、実際に家でも試してみましょう。

〈学習アドバイス〉

- 水産実習では怪我や火傷に注意するとともに、服装や清掃など衛生管理に気を付けながら加工を行いましょう。
- 課題研究では、話し方や見せ方などの、プレゼンテーションの向上を意識しながら取り組みましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	水産や海洋に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②思考・判断・表現	水産や海洋に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、水産業や海洋関連産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③技能	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、水産や海洋に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④知識・理解	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、水産業や海洋関連産業の意義や役割を理解している。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料										
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	
①関心・意欲・態度				◎	○		○				
②思考・判断・表現					○	○	◎				
③技能				◎							
④知識・理解						○	○				

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	水産オリエンテーション 水産実習に関する食品衛生 課題研究に関する講義 実習準備	食品衛生講習 食品・製造・環境などに関する講義 マキリ研ぎ 共同作業所清掃	④食中毒などの事故を防ぎながら、高い品質の食品を製造する方法を身につける。 ④水産学における基礎知識を理解する。 ③安全面に考慮しながら、正しくマキリを研ぐことができる。 ①衛生面に十分配慮し、積極的に清掃を行う。
5	赤カレー燻製	下処理・調味・金網上げ・パック詰め レポートまとめ	③カレーの処理法や燻揚げの方法を習得する。 ①積極的に実習に参加し、協調性を養う。
7	ウニ缶詰	ウニ剥き・秤量・缶・加圧殺菌・ラベル貼り・レポートまとめ	③ウニの処理法や缶詰作りの方法を習得する。 ①積極的に実習に参加し、協調性を養う。
9	課題研究	水産に関する課題研究	②これまで学んできた知識を活用して水産及び天売地域の課題について考えまとめる。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

※4月から適宜9月の課題研究の準備が入ります。

科目名	天売学	学 年	全学年	単位数	1
科目の 目 標	天売島の歴史・文化・産業及び自然について学ぶことにより、郷土を愛する心を育成し、地域の発展を担う人材を育成する。				
教科書	なし	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 天売島についての知識を、歴史・文化・産業・自然等の視点から深めます。
- (2) 課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む力を身に付けます。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 基本的には必要ありません。
- (2) 授業について
 - ア 資料を用いながら講義を行います。
 - イ 学習したことをClassiに入力し、ポートフォリオを作成します。
- (3) 復習について
 - ア 発表資料をまとめる前には、1年間でのどのようなことを学習したか資料を見直しておきましょう。

〈学習アドバイス〉

- 最後の授業は1年間天売学で学んだことを発表します。発表資料の作成に困らないよう、講義の際に配られる資料だけでなく、講師の先生のお話で重要だと思った部分をメモしながら授業を受けましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	・天売島の郷土文化について学び、島の現状について総合的に理解している。 ・島の歴史・文化・自然について理解するための技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	・資料等を整理し、島について客観的に判断して自分の考えを他者へ伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	・天売島について興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付けている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

材料 観 点	評 価											
	定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発言 発表	作品	資料 作成	ノ ー ト	Classi	討 議	学 習 課 題	休 業 中 課 題
①知識・技能							○		○			
②思考・判断・表現				○	○		○		○			
③主体的に学習に取り組む態度				○	○		○		○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	島内清掃天売クリーン作戦	天売の環境について	①天売の自然や環境問題について理解している。 ③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。
6	天売の伝統文化（実習）	伝統文化の創造について（天売太鼓）	①天売太鼓を通じて伝統文化の創造と継承を図ることができる。 ②実技・実演を通して伝統文化の表現ができる。
10	天売の自然（実習・講義）	天売の野鳥や自然環境について	①天売の自然を学習し、野鳥を取りまく環境について理解している
11	天売体育協会主催 バドミントン大会への参加	地域の特性や課題について	③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。
	天売の未来Ⅰ（実習）	これからの天売について（発表資料作成）	②天売の現状の課題や解決方法を考える事ができる。
12	天売の未来Ⅱ（実習）	これからの天売について（発表資料作成）	②天売の現状の課題や解決方法を考える事ができる。
	天売の未来Ⅲ（発表）	これからの天売について（発表）	②これまでの学習や資料をまとめ、自分の考えを他者へ伝えることができる。
1	天売体育協会主催 ミニバレー大会への参加	地域の特性や課題について	③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。